

総務文教常任委員会会議録

(令和4年8月2日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和4年8月2日(火)
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	那須芳人
委員	吉村直城		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	局長補佐	小松一恵
--------	------	------	------

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査
 - 「へき地における学校教育の調査研究について」
- (2) その他

開会 16時50分

閉会 17時07分

○石川委員長 今日2校、福浦小学校、家串小学校を視察させていただいて、各委員の感想を頂きたいなというふうに思います。

副委員長。

○尾崎副委員長 失礼します。

今日は福浦小学校、家串小学校ということで、小さい学校の現状を確認させていただいた中で、それぞれ校長先生が取組をお話ししていただきましたが、その中で、教員の労務改善というのが以前から問題になっておるところで、今の状況を確認いたしましたら、かなり改善ができておるし、今後も取り組んでいくというようなお話を校長から聞きまして、実際そうなのかと思って、これはいいことやと思うんですが、これについては、現場の教師の方からも私自身は直に聞いてみたいなという思いはいたしました。これについてももっともっと進めていかなければならない問題だと思っております。

あと、学校の規模のことで、大きい学校と小さい学校のそれぞれの特色を、お話を聞かせていただきましたが、これについてはある程度こう想像の範疇の中での話であって、一長一短ありますけれども、いいお話やったなと思っております。私の感想です。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 それぞれ、各学校、福浦、家串とも特徴的な取組をされておると思います。それから、ICT関係、ICTの活用なんですが、今、過渡期であるんで、いろいろまだ結果も出ていないようですし、いろいろと各学校、試行錯誤しながらということで、よくやられていると思いました。

それから、家串小学校ではやっぱり地域との関わり、やっぱり小規模校になるとやっぱり地域との関わりとか地域の理解がないと、なかなかうまくいかないのではないかという感想を持ちました。

で、また、労務については、教職員さんの労務については、ちょっと疑うわけではないですが、個々の話になってくると、尾崎委員と同じでもっとよくあれせんと、本当かな、もうちょっと苦勞されとるんやないかなってというような、実態はもうちょっと苦勞されとるんではないかというような考えを持ちました。

以上です。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 2つの学校とも、地域と連携したり、独自のいろんなチャレンジをされていて、すばらしいなと思いました。

極小規模校ならではの体験学習とか、地域の人とのつながり、内海なら俳句教室があったりとか、福浦小学校もね、草刈りに地域の人がぱっと集まってくれたりとか、本当に地域の中で、地域と連携しながら学校があるのだなということを、実際に、具体的に聞かせていただきました。

なので、これが、こういう学校が地域からなくなるということは、地域の方たちにとってもかなり喪失感は大いじゃないかと思いましたが、質問の中に入れてさせていただいていた、統合について保護者・地域の方のお考えはどうですかというのをに入れてもらったんですけど、残念ながら校長先生お二人とも、そこは私の範疇ではないというようなことで、聞かせていただけなかったのが残念です。やっぱり保護者・地域の方たちの意見というのも、先生の労務環境と同じですけど、やっぱり議員が町民の代表として聞くことができたなら私は思いました。

以上です。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 まず福浦小学校なんですが、全校児童が10人を切るような本当の小規模校ということで、今後、令和7年度には児童8名で、教員の数も3名ということを私、今日聞いてちよっ

と驚いたわけなんです、10人を切るような学校っていうのはやはり教員1人の負担もかなり重くのしかかってくるし、学校の存続がどうなのかなという、そういった感じを受けました。

また、家串小学校は特に総合的な学習の時間、これは地域と密着した学習の時間ということで、ふるさと学習あるいは海学習ですか、とで地域の方々と連携を取っている、大変いいことだと思います。

福浦におきましても、やはり地場産業の餌やり体験ですか、そういったこともやられるということで、これはもう今からもどんどんやっていってもらいたいと思います。

また、家串小学校では、来年、来年ちょっとまた子供の数が増えるということで、これもIターンの方がおられる。やっぱり地域の学校を存続させようと思ったら、やはり外部から呼び込んでくると、そういった施策をその地域が真剣に考えていく必要があるのではないかなというふうに感じました。

以上です。

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 2校見させていただきました。

福浦小学校に関しては1桁の児童数ということで、これはもう6年前におそらく分かつたはずなんですよ。で、6年間何しとったんだと。船越小学校もありますし、そこら辺りで何か話でもあったのかなという、あればよかったのになというふうな気がいたしました。で、統合、どっかの学校に移るというのはやむなしかなというふうな気がいたしております。

それから家串小学校なんです、地域特性を生かした取組がよく分かったんですけども、これも保護者の意向が一番なんですけれども、もっとタブレットを活用した形で、統合せずに生き残る方法はないのかなというふうな気がいたしました。そのぐらいです。

○石川委員長 吉村委員。

○吉村委員 実は合併したときから12年間、各学校、当時35校あったんですよ、小中学校。12年間、毎月、35校ずっと12年間回ってきたんですけども、あの当時先生方と、必ず教職員と会合を持って、いろいろ話しよったんですけども、今日2校であれして、まあ校長の話だったんですけども、聞きながら随分変わったなど。

いう中で、先ほど働き方改革のあれも出ていましたけども、今一番苦労しているのは、逆に言ったら現場やないかなと。一番。だからそこに、我々が見に行くかいうあれじゃなくて、やっぱそっちに寄り添った部分をやっぱ考えていくべきじゃないかなという感じを特に持ちました。

特色あるというのは、当時から持っていたみたいですけども、小さくなればなるほど余計こう細やかに地域との関わりを持っているんじゃないかなというふうに感じました。

○石川委員長 私のほうは両校とも、労働問題については、今の現状ではそんなに極端な超過した労働時間じゃないのかないうことで、ICTが果たしている役割もかなり多いんかなというふうに思いました。

あとやっぱり小規模校ということで、一人一人の生徒に応じた指導をされているのかなと。で、また、オンライン授業も、福浦小学校、家串小学校ともやられていますけども、なかなか多分現場の先生は苦労されているんじゃないかなというふうに、それぞれの学校で進捗が違う中でオンライン授業をするというのは難しいのかなと。そこに何らかのマニュアルがあって、こういうふうにしたほうがいい、いいですよっていうようなサポートがもう少しできれば、また違ったオンライン授業が、私はできるんじゃないかなというふうに思っています。

家串小学校にしても体験学習、ふるさと学習とか、福浦小学校も海洋学習ということで、体験型というか地域の特色に合った体験型の学習ができているということで、多分これ生徒にとっても、いい思い出にもなるでしょうし、いい体験がこの小規模校でできているんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

先ほどちょっと言いましたが、金繁委員のほうから要望が出ています。法令に関して。学校教育課のほうに要請していただいて、どういう法令があるのかということ。

福浦小学校の先生の、生徒数に応じて、法令で決まっていますよというような話があったと思うんですよ。だからそれはどこの法令から引っ張ってきているのか、ちょっと我々としても調査しとく必要性があると思いますので、よろしくをお願いします。

あと、その他で何かありましたら。事務局のほう、何かありますか。

本多事務局長。

○**本多事務局長** では、事務局からお知らせをさせていただきます。

もう既に通知をさせていただいているので、もう確認はしていただいているとは思いますが、一応、来週、8月8日の月曜日、昨日、砥部町のほうにも再度確認させていただいたんですけども、一応コロナの関係、お互い両町ともそれなりに出ているんですけども、感染対策を万全にして伺いますということで、先方にも了承をいただいておりますので、予定どおり実施させていただきたいと思っております。

一応、役場本庁に11時に集合していただいて、先方の砥部町の山村留学センターには13時30分到着予定で行いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○**石川委員長** ほかに何かありますか。

なければ終わりたいと思います。お疲れさまでした。

委員長